



8

ユニセフ募金活動

明るく活発な学校をつくろう

報告者 愛知県西尾市立幡豆中学校 太田 尚志先生

1. 幡豆中学校と生徒会

本校は、愛知県の西三河南部地方に位置し、豊かな自然に囲まれた学校である。特に、三階教室から見渡すことのできる三河湾は必見で、生徒の心の落ち着きように一役買っている。

平成22年度の幡豆中学校生徒会は、「明るく活発な学校をつくろう」をテーマに、元気にあいさつをすることや行事を通して一体感をもつことに重点をおいて活動してきた。さらに、「気持ちよく人助けをすることで、めざす姿に近づけるのでは。」と考え、ユニセフ募金に力を入れることにした。



幡豆中学校と生徒の活動

2. 活動の計画

活動の流れ

①募金の計画を立てる

日程を考えた。準備内容やそれぞれの生徒の負担を考慮し、月に一度募金を呼び掛けると決めた。また、意識を高めるために、掲示物をつくったり、校内放送で連絡したりすることを決めた。

②募金の準備

1. 募金箱の作成
2. 掲示物の作成
3. 全生徒への周知

③募金活動の実践

次ページ参照



ユニセフ募金活動

3、活動の実践と成果



○毎月の募金

毎月、第三週の水曜と木曜日を募金日と決め、全校生徒に周知した。特に水曜日は、生徒会役員が始業前に募金箱を持って各クラスを回ることで意識を高めるとともに、募金してくれた生徒に直接お礼を言うことができた。結果、他学年とコミュニケーションをとる機会が増えた。



○ユニセフ募金に関する掲示物

募金活動の必要性を訴えかけるため、インターネットや本、その他の資料を活用して活動の内容や意味を調べて掲示物をつくったり、放送で伝えたりした。生徒は、日本の子どももユニセフに助けられたことがあること、少しの手助けで多くの命が救えることを知り、より意欲的に募金活動に取り組めるようになった。



○チャリティ文化祭の開催

11月の文化祭を「チャリティ文化祭」と銘打ち、生徒だけではなく、地域の方にも募金活動に興味をもっていただく機会をつくった。上記の掲示物に加えて、各企画展でオリジナルな掲示物をつくってもらうことで、主体的に募金活動に取り組めるようになった。年間を通して全校で取り組んだことにより、生徒は助け合う精神を自然と身に付けるとともに、国際社会における自分たちの役割にも目を向けるようになった。

4、まとめー生徒会役員の感想ー

単純な動機で始めたユニセフ募金でしたが、調べてみると、世界中の子どもたちは日本のように平和に暮らしているのではないかと分かり、とても驚きました。平和な国に生まれた私にできることは何か、と考えさせられました。

はじめはあまり協力してくれませんでしたが、放送やポスターで世界の状況を伝えると、徐々に多くの人が協力してくれるようになりました。全校の生徒で危機感を共有できたことはうれしかったです。とてもやりがいがありました。